

Care & Communication

ケア&コミュニケーション

C O N T E N T S

P1-2		INSIDE REPORT	マイクロSCOPEと4台のレーザーを駆使し、将来に希望が持てる歯科診療に取り組む はぎわら歯科 院長 萩原 洋行 先生
DOCTOR'S TALK		P3-4	スピーディーな「攻めの経営」で予防を重視した診療の可能性を広げる コンドウ歯科 院長 近藤 昌嗣 先生
P5		THE STYLE OF DENTAL CLINIC	アンチエイジングを重視し、歯の健康をトータルにサポート デンタルクリニック アレーズ銀座 院長 中村 茂 先生
THE FRONT LINE		P6-7	舌側矯正で欧米からも注目を集める矯正歯科医院 ひろ矯正歯科 理事長 廣 俊明 先生

マイクロスコープと4台のレーザーを駆使し、将来に希望が持てる歯科診療に取り組む

はぎわら歯科 院長 萩原 洋行 先生



萩原洋行 院長

伊豆高原駅から徒歩10分ほどの距離にある「はぎわら歯科」。院長の萩原洋行先生は、最新の機器を積極的に活用しながら、後進の指導にも熱心に取り組んでいる。機器の活用法や将来の歯科治療についてうかがってみた。

患者の気持ちを大切に 都心レベルの治療に取り組む

はぎわら歯科は、萩原洋行先生のお父様から続く歯科医院。温暖で東京からも近いため、リタイア後の生活を楽しむために、首都圏から移り住む人も多い。

「そのせいでしょうか、歯科に対しても、東京と同じレベルの診療を要求される患者さんが少なくありません。周囲に歯科医院が増えたこともあり、診療は年々シビアになっています」

患者層の中心は60代。人生経験も豊かな患者が多いだけに、満足できる診療を提供するため、何を求めているか、どう分かりやすく説明するか、コミュニケーションには気をを使うという。

「患者さんの喜ぶ顔が見たい。その気持ちをなによりも大切に診療を続けています」

マイクロスコープの導入で 治療の精度が向上

昨年、はぎわら歯科には、マイクロスコープという強力な助っ人が加わった。それも2台、同時に設置した。

「実際に使ってみて、これほど違うのかと愕然としました。まず驚いたのが根管の異物除去です。これまでもビデオカメラや拡大

鏡を使って治療していましたが、以前は見ているようで、じつは勘や感覚に頼っていたのだと痛感しました」

導入前は、根管治療や歯肉炎の治療を中心に使うと予測していたが、今ではより広範囲の治療に使っているという。たとえば、クラウンやブリッジなどのプレパレーションだ。細部までクリアに視覚で確認できるため、印象を正確に取ることができる。印象の精度が上がったことで、歯科技工士との連携がスムーズになり、補綴物の修正が少なくなった。また、CAD/CAMもマイクロスコープを使うことで、精度が上がった。

また、導入し、初めて気づいたこともある。マイクロスコープだからこそ必要になるミラーテクニックだ。裸眼で見た状態とは反転した画像になるため、萩原院長は、ミラーの使い方のコツを覚えるまで、少しとまどったという。

「外科に使えることも驚きでした。出血量が少ない症例に限られますが、境目が分かりにくい癒着部分もしっかりと目で確認できる。非常に安心して治療に臨めます」

4台のレーザーを 症例に合わせて使い分ける

はぎわら歯科で目を引くのは、4台のレーザーだ。Er:YAGレーザーを皮切りに、1年も経たないうちCO2レーザーを導入。さらに、

洋館を思わせる落ち着いた色合の外観



ナチュラルなイメージの受付



診療室にはユニット6台が並ぶ



個室タイプの診療スペースもある

Nd:YAGレーザー、半導体レーザーを設置した。

「無痛で治療を進めるには、麻酔が必要になりますが、麻酔にはやはりリスクがある。とくに高齢の患者さんは、血圧の上昇などのトラブルが心配です。そこで、麻酔なしでも治療ができるレーザーに注目したのです」

4台も揃えることになったのは、レーザーには得意不得意があり、症例に応じて使い分ける必要があると感じたからだ。1台を無理に使い回すより、症例に合わせてレーザーを使い分けるほうがよいとの判断だった。

どのように使い分けているか、簡単に紹介しよう。まずは、硬組織と軟組織に対する効果だ。Er:YAGレーザーは、一般的には硬軟両組織に使えるレーザーだが、萩原院長は硬組織の切削に使っている。一方、軟組織に使っているのはCO2レーザーとNd:YAGレーザー、半導体レーザーだ。なかでも、CO2レーザーは8Wと出力が大きい機種を使っているため、大がかりな手術を必要とする症例に使うことが多い。また、Nd:YAGレーザーはポケットに入れやすいことから、歯周病に使うことも多いという。

「私の歯科医院では、麻酔をする場合、どんな症例でも、血圧と脈拍を測定し、パルスオキシメーターで血液中の酸素濃度もチェックしています。しかし、患者さんによっては、バイタルチェックをすることで、かえって不安を感じる方もいます。麻酔を減らすことは、患者さんの心理的・肉体的負担を軽減します。治療効果も高いレーザーは、患者さんと私たち双方にメリットをもたらしてくれるのです」

夢が持てる歯科のため、 後進の育成に力を注ぐ

現在、スタッフは、勤務医が3名、歯科衛生士5名、歯科助手1名、歯科技工士が1名。萩原院長は、彼らの育成にも力を注いでいる。

例を挙げれば、歯科衛生士の海外研修。3年以上勤務の歯

科衛生士を対象に、これまでに2回、スウェーデンとスイスへ予防歯科の研修に送り出した。また、スウェーデンスタイルの予防歯科を学ぶ国内のセミナーにも積極的に参加させている。

「今の若いスタッフは、参考書を勧めても、なかなか読まない。それよりも、セミナーなどに参加させて、体験させるほうがいい。視野が広がり、勉強する意欲が刺激されるからです」

勤務医に対しても、歯科医師の基本である保存治療の技術を上向させるため、日々、きめ細かな指導を行っている。前項で紹介したマイクロスコーブを導入したのも、勤務医たちの技術向上を助けるという目的があったからだ。

「若い歯科医師たちが、将来に夢を持てるようにサポートするのが、先輩としての役割。最近ではインプラントの人气が高まっていますが、確かな保存治療の技術があるからこそ、自費診療も生きてきます。無理に範囲を広げなくても、汗をかきながら、一生懸命、治療をこなしていれば、しっかりと食べていける。そんな安心して働ける歯科業界にしていきたいですね」

Profile

萩原 洋行 先生

- 1978年 日本大学歯学部卒業
- 1978年 日本大学歯学部第3補綴学教室(クラウン・ブリッジ) 助手
- 1980年 鶴見大学歯学部第一口腔外科学教室助手
- 1985年 国立がんセンター口腔科勤務(兼任)
- 2000年 はぎわら歯科院長に就任
- 日本歯科医師会会員
- 日本ヘルスケア歯科研究会会員
- 日本顎咬合学会会員
- 東京松風歯科クラブ 幹事
- 日本顕微鏡歯科学会会員
- 日本エルビウム・ヤグレーザー研究会会員

はぎわら歯科

住所: 静岡県伊東市八幡野1194-30

TEL: 0557-53-0026

HP: <http://hagiwara-hd.com/>

昨年、導入したマイクロスコーブ



これらのレーザーを使い分けている



抜髄処置・感染根管治療の滅菌や歯周ポケットの消毒、滅菌ができる「コスモベリオエンドシステム」



歯科衛生士を積極的に海外研修に送り出している



萩原先生とスタッフのみなさん

スピーディーな「攻めの経営」で 予防を重視した診療の可能性を広げる

コンドウ歯科 院長 近藤 昌嗣 先生



近藤昌嗣 院長

3年前から予防重視の診療方針に転換した「コンドウ歯科」、苦痛の少ないインプラントが好評で、患者数、売上ともに順調に伸びているが、苦しい時代もあった。苦境をどう乗り切ったか、院長の近藤昌嗣先生にうかがってみた。

3年前の変革をきっかけに 患者が倍増

「失敗を恐れて何もしないほうが、よほどハイリスクです」

と、エネルギーに語る近藤昌嗣院長。3年前、ユニットの一部入れ替えとインプラントの本格的な取り組みをきっかけに予防重視の方針に転換。ユニットを4台から7台に増やし、CTスキャンやセレックを導入するなど、設備の充実にも力を入れてきた。その積極性が実を結び、月間およそ300人だった患者数が、現在は800人近くにまで増えている。

「余裕ができてから設備投資をするのでは間に合わない。先行投資が大事」と、近藤院長は言い切る。順調な成長ゆえの強気の発言に思えるが、じつは逆だ。苦しい時期を乗り越えてきているからこそ、「攻めの経営」の大切さを説く。

ユニットの交換が 苦境を打開するきっかけ

改革前のコンドウ歯科は、経営は順調だったが、問題もあった。1つが予約システム。混雑期は患者が1時間以上待つ状態が当たり前になっていた。2つ目は、設備の老朽化。3つめは、近藤院長のモチベーション。日々の診療に追われ、経営を見直す余裕がなく、将来の展望が描きにくくなっていった。

状況を打開したのは、ユニットの交換だった。リースは高額と思いついていたが、修理代並みの出費で新品と入れ替えられることに気づいたのだ。新しいユニットは使いやすく、気持ちよく仕事ができる。近藤院長の歯科医療への情熱が蘇ってきた。

次に近藤院長は、インプラントに目を向ける。これまでは希望する患者のみを対象にしていた。

「啓蒙活動を積極的に行い、リスクのある症例も手がけよう」

そう決意してから、インプラントは急増。前年の倍に増えた。ただし、増えた背景にはコンドウ歯科ならではの事情がある。強い信頼感で結ばれていたため、患者が近藤院長の勧めを受け入れやすかったこと、近藤院長が確かな技術と経験を持っていたことが大きい。現在、近藤院長は数多くの歯科医院から出張手術を頼まれるほど、テクニックの高さには定評がある。

タイミングよく新しい風も吹いた。三浦敏美先生が勤務医として加わったのだ。三浦先生は予防歯科の導入が不可欠と痛感。近藤院長を粘り強く説得する。

「実践している先生のお話を直に聞くのが最適と、半ば強引に近藤先生を熊谷崇先生のセミナーに送り出しました(笑)」(三浦先生)

セミナーの受講後、 予防歯科の重要性を痛感

豪快でカリスマ性がある一方で、柔軟性も合わせ持つのが近藤院長の魅力だ。セミナーの参加前は「予防歯科は不要」と言っていたが、受講後は180度、方針が変わる。

「トレンドから完全に取り残されているとショックを受けました。歯の修理人ではなく、患者さんの歯を守ることが歯科医師の仕事。その使命を見失いかけていた自分に気づいたのです」

その後の行動は鮮やかだ。ユニットを増やし、患者のメンテナンスを6か月から3か月に短縮。歯科衛生士も徐々に増やし、現在ではパートを含め、7人が活躍している。歯科衛生士たちへの指導も厳しい。三浦先生がモデルとなるクリーニングとPMTCのテストに合格しなければ、予防診療に携わることはできない。

定期健診の連絡は、ハガキを送付し、前日にはパソコンを使って電話連絡するなど何重にもフォローしている。12年前から続くホームページもさらに充実させ、日々、改善している。

「予防歯科で大切なのは、患者さんの意識改革です。一生、自分の歯で噛める生活を営むには、予防が不可欠なこと。そのために私たちは予防歯科の先進国であるスウェーデン並みのケアを提供すること。だから、きちんと来てください、ということ歯科医師が自分の言葉で患者さんに伝えなければいけません。歯科衛生士任せでは、思いは通じないのです」

コーチングの導入で 院内組織の交流を活発化

コンドウ歯科は、院内のコミュニケーションでも大きく変わった。以前は、近藤院長のトップダウンですべてが進められていた。しかし、現在は月1回、全員が課題を持ち寄り、改善点を話し合い、結果を検討する3時間のミーティングがある。

風通しがよくなったきっかけは、コーチングの考え方を導入したことだ。コーチングとは、心理学的な手法などを取り入れ、個人の能力を引き出し、活用する人材開発の手法の一種。コンドウ歯科では、歯科衛生士の資格を持ち、開業医を対象にコーチングを行っている「クリニックサポートM」の松浦節子さんを講師に招いている。松浦さんも加わったミーティングでは、スタッフたちのトレーニングだけでなく、近藤院長に対する「人を育てる力」のトレーニングも行われる。

「第三者がミーティングに加わると、公平な立場からの意見が聞ける。私自身、意見を言ってくれる人がいるのは、ありがたい。スタッフも認められたいという意欲が高まり、自主性が育ってきた。コーチングの導入後、私とスタッフの距離が近くなりました」

予防歯科に本格的に取り組むようになって、2年半ほどの間に、大きく変わったコンドウ歯科。なによりも、「よい」と思ったことは、スピーディーにどんどん取り入れることで活気が出てきた。セレック導入もその一つ。最近ではマスコミにもセレックが注目されていることもあり、希望する患者が増えてきたという。

「患者さんに最大限のおもてなしの心を持って接すること。患者さんの歯を守り育てること。そして、残存歯の保護のためにインプラントを行うこと。以上の要素が統合されて当医院の予防歯科となっているのです」

木目調で統一した待合室。受付で歯ブラシなどを購入する人も多い



次々とアイデアを現実化する近藤院長



近藤院長の熱意を取り戻したユニット



近藤先生とスタッフのみなさん。前列一番右が三浦先生



患者に興味を持ってもらうため待合室に置いているセレック



歯ブラシをパッケージし、購入しやすくしている



インプラントに欠かせないCTスキャンも導入



Profile

近藤 昌嗣 先生

- 1983年 愛知学院大学歯学部卒業 ●1987年 コンドウ歯科開院
- (社)日本歯科先端技術研究所東海地区会長
- 日本アンチエイジング歯科学会理事

三浦 敏美 先生

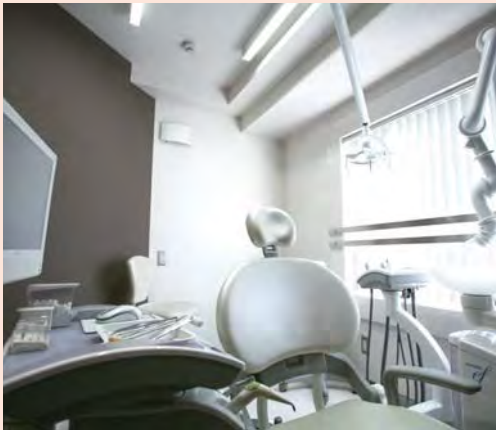
- 1990年 日本大学歯学部卒業 ●1990年 日本大学矯正科入局
- 1992年 大内歯科医院(旭川市)勤務 ●2005年 コンドウ歯科勤務

コンドウ歯科

住所: 愛知県名古屋市長瑞穂区石川町2-4

TEL: 052-853-1211 HP: <http://www.e-kondou.com/>





ガラスで仕切られている個室の診療室



メインの診療室の他、予防専用、矯正歯科用の個室もある



ビルのワンフロアーを活用した院内



中村院長とスタッフのみなさん。
左から2番目が歯科衛生士の鈴木路子さん

アンチエイジングを重視し、 歯の健康をトータルにサポート

デンタルクリニック アレーズ銀座 院長 中村 茂 先生

歯の健康は、全身の健康にも大きく影響する。

アンチエイジングの考えを重視したケアを行う「デンタルクリニック アレーズ銀座」を訪問してみた。



中村 茂 院長

若々しくありたい患者のニーズに 「歯科人間ドック」などで応える

「デンタルクリニック アレーズ銀座」(以下、アレーズ銀座)の開院は2007年8月。銀座という場所柄、患者は生活習慣病が気になる40代以上が多い。

「アンチエイジングへの関心が高まっていることもあり、いつまでも健康で若々しくありたいと願う患者さんは多い。その気持ちに応え、歯科医院でできる範囲で健康をサポートするのがコンセプトです」

その一つが、「歯科人間ドック」だ。レントゲンなどの一般的な歯科チェックに加え、虫歯や歯周病のリスク検査、唾液検査、飲み込む力の検査などを行う。

「長年の悩みを解決したいと訪れる患者さんが多いせいか、歯科人間ドックへの関心は高い。歯科の最新情報や自分の健康に関する正確な情報を知りたいという意欲が強い患者さんは多いですね」

歯科でできる範囲で 全身の健康状態も把握

もう一つ、ユニークなのは日本抗加齢医学会で推奨している健康診断などを行う「アンチエイジングドック」だ。検査項目は、神経年齢や血管年齢、ホルモン年齢、骨年齢、重金属ミネラル検査、筋年齢など多岐に渡る。結果が出たあとは、歯科衛生士であり、日本抗加齢医学会指導士である鈴木路子さんが食事や運動などのライフスタイルについてアドバイスをを行っている。「歯を1本ずつ診るのではなく、『人を見る』ことを大切にしています。それには、私たちが全身の健康を把握しておくことも必要なのです」

患者の中には、「忙しさで健康管理に手が回らない。すべてを歯科医院に任せたい」と言う人もいます。そうしたニーズにも、

患者の健康をトータルに把握しておくことは役立つ。

また、カルテに患者情報をすべてメモすることも徹底している。たとえば、「犬が好き」「エレベーターまで見送りは好まないの
で不要」などの些細な情報も書き込んでいる。「自分は大切にされている」と患者に感じてもらうには、マニュアル化した対応ではなく、中村院長やスタッフ自身が肌で感じ、気づいた情報を全員で共有することが大切だからだ。

専門家によるチーム医療で、 高度な治療を目指す

アレーズ銀座では、「インターディシプリナリー」にも重点を置いている。インターディシプリナリーとは、一人の患者に対し、専門家がチームを組み、それぞれが専門を生かして診断・治療を行う医療体系のこと。アレーズ銀座の場合はペリオ、咬合、審美、インプラント、矯正において、歯科医師と歯科衛生士、歯科技工士、矯正専門医が情報を共有し、治療のゴールを目指し、協力し合っている。従来のように歯科医師がキーマンになるのではなく、それぞれの専門性を活かしたチーム医療を行う点が特徴的だ。「今後は、患者向けのインプラントセミナーなどにも取り組みたい。患者さんの気持ちに寄り添い、一人ひとりに合った診療を大切にしていきたいです」

Profile

中村 茂 先生

- 2000年 日本大学松戸歯学部卒業 ●同年、日本大学松戸歯学部附属病院 口腔外科第1講座勤務 ●2002~2007年 東京都内の歯科医院に勤務 ●2008年 デンタルクリニック アレーズ銀座 院長
- SJCD会員 ●赤坂会会員 ●歯周病学会会員

デンタルクリニック アレーズ銀座

住所：東京都中央区銀座5-5-16銀座テラービルディング7F
TEL：03-6274-5333 HP：http://www.dc-alaise.jp

舌側矯正で欧米からも 注目を集める矯正歯科医院

ひろ矯正歯科 理事長 廣 俊明 先生



「ひろ矯正歯科」は、舌側矯正を中心とする矯正専門の歯科医院。

舌側矯正のメリットや欧米からも注目されている独自の舌側矯正「ヒロ・システム」について、うかがってみた。

廣 俊明 院長

優れた治療をすれば、 立地に関係なく患者は訪れる

ひろ矯正歯科が長野県塩尻市に開院したのは1994年、廣俊明院長が34歳のとき。人口が少なく、交通も不便な立地で矯正専門の歯科医院を開業するのは「無謀」と周囲から反対された。しかし現在は、首都圏や近畿、北陸からも患者が訪れるほどだ。

「開業当初、設定した年間の治療開始患者数は30人程度。先輩方からは患者は中央指向だから、地方には来ないと言われましたが、優れた治療をすれば、必ず来院すると信じた。とはいえ、最初の1か月は患者さんが2人。さすがに胃が痛くなりました」

だが、その心配は最初だけだった。所属する歯科医師会の歯科医師からの紹介や患者の口コミにより、患者数は増加。診療所も手狭になり、97年に現在地に移転。2台だったチェアも現在は6台まで増え、年間の治療開始人数は200人に達している。

舌側矯正への情熱から 生まれた「ヒロ・システム」

廣院長が舌側矯正に興味を持ったのは、今から20年前、松本歯科大学に勤務していた頃だ。

「舌側矯正は治らないというのが定説でしたが、私は本当にダメなのか自分で確かめたかった。そこで、数症例治療してみたところ、予想以上にいい結果が得られた。ただ、問題も多かった。私は、これらの問題をクリアすれば、舌側矯正はもっと使いやすいものになると確信しました」

そして、廣院長は、既成概念にとられない柔軟な発想と創意工夫でさまざまな課題に取り組む。問題解決にやりがいを感じたからだ。

90年頃まで、舌側矯正の主流はシリコンのインダイレクト・トレーを用いた方法だった。実際に使ってみると、技工操作が煩雑でエラーが起こりやすく、コストが高い。ボンディングの失敗も少なくない。廣院長は、舌側矯正の難しさは、装置の位置づけに問題があると気づいた。

そこで、考案したのが、根本から見直し、1歯ずつボンディングする方法だ。その結果、技工が簡単になり、エラーが減り、接着精度も高まった。さらに、個歯トレーとしたことで、従来法では印象を採ってからセットまでの間、タブーとされていた抜歯などの処置も可能になった。叢生の著しい症例でも正確にボンディングできるようになったこと、低コスト化など、舌側矯正の抱えていた多くの問題の解決

が可能になった。

「この成果を96年にアメリカ矯正歯科学会で発表したところ、非常に驚かれました。当時の舌側矯正の技法では、得ることが難しいレベルの治療結果だったからです」

じつは学会発表時、この成果は、講演や論文のタイトルの「RCIBS」という名称だった。変わったのは、臨床で活用し始めた歯科医師たちが、「ヒロ・システム」と呼ぶようになったからだ。彼らは、名称を通じて、廣院長の情熱と努力に敬意を表したのだ。

廣院長も彼らの声に応え、舌側矯正の普及に努める。2000年に国内外で取得した「ヒロ・システム」の特許をその後、取り下げたのも、舌側矯正を広めたいという思いからだった。

小型ブラケットを開発し、 舌側矯正の患者負担を軽減

大人の矯正患者にとって、気になるのが見た目だ。舌側矯正は、ニーズに合致しているが、発音障害や舌の痛みなど、患者の負担は少なくない。廣院長はこの問題もブラケットの改良で解決した。

「10年ほど前、オリジナルの舌側矯正用ブラケットを特注で発注しました。その後、改良を重ね、現在は幅も厚みも従来品の半分以下の小型ブラケットを用いています。しかも、うちの歯科医院では、奥歯に金属のバンドも用いませんし、外側には一切装置を付けませんから、完全に隠されています。会話も普通に出来るので、大きな口を開いて、自分から人に見せない限り、装置が入っていることは他人にはわからないでしょう」

また、舌側矯正は虫歯になりやすいという説があるが、実際には、歯の内側は唾液の分泌が活発なため、虫歯になりにくい。ひろ矯正歯科で舌側矯正を行った患者で、治療中に虫歯を作った人は、ほとんどゼロに近いという。

「治療期間も、唇側矯正とほとんど変わらず、症例によっては舌側矯正の方が短期間で良好な治療を得ることがあります」

現在、ひろ矯正歯科では、歯科医師1名、歯科衛生士3名で、毎日40人前後の患者に対応しているが、必要な処置をきちんと行うために、「必要のない処置や会話」は極力省き、1分たりとも無駄にしないことを徹底している。

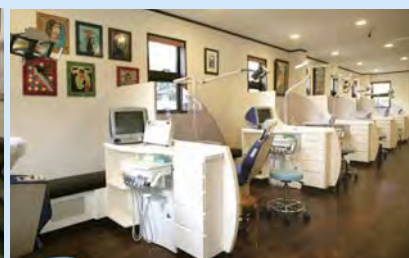
また、診療やカウンセリングはオープンな空間で行っている。「もちろん患者のプライバシーには気を使いますが、私たちに隠立してすることは何もありません。むしろ、オープンにしたほうが、



スイスなどの山荘を思わせる外観



落ち着いた木目調の待合室



院内の状況を全て把握できるように、オープンスペースで作られている

患者さんは安心すると考えています。スペシャリストとしての確かな技術とプロフェッショナルな対応をすることが、患者さんにとっての最高のサービスだと考えているのです」

EBO試験に世界で初めて舌側矯正でトライし、合格

廣院長は、治療結果に対して自己満足で終わることがないよう、常に第三者評価を求めることにも力を入れている。その一つが、2005年、ヨーロッパ矯正歯科学会の専門医試験(EBO)への挑戦だ。廣院長がこの試験の受験を決意したのは、手がけたすべての症例において、唇側矯正と同じ治療期間で同じ結果が得られるという主張を客観的に証明したかったからだ。

そして、唇側矯正でも合格が難しいと言われる試験に舌側矯正で挑み、口頭試問もクリア。初めての挑戦で合格する。

この合格は、他の受験者や試験官たちにとって驚く結果だった。舌側矯正で合格したのは、これまで誰一人、いなかったから

だ。4年経った現在も、EBO試験に全て舌側矯正で合格したのは、世界中で廣院長を含めて2人。日本では今も一人だ。「今後も、無理と言われてに、さまざまな工夫を凝らしてトライしたいですね。子どものように、新鮮な気持ちで常に挑戦し続けたい。それが、私の生き方でもあるんでしょね」

Hiro System (小型ブラケットを使用)



ニューヨークの世界舌側矯正学会で報告した最新のヒロ・システム



最新のシステムはrebondingが可能で、コアの除去も容易である

舌側矯正の症例



装着直後

初診時年齢19才の女性、上顎前歯の前突、上下顎前歯の叢生、Deep Overbite, Bimax. Profileを主訴に来院。写真は上下顎に装置を装着した直後。舌側矯正のエキスパートと言われる先生達が、臼歯部にバンドを巻き、固定のための装置を外側に付け、補強のためのパラタルバー



を使用するのに、廣院長は外側には一切、何も付けないし、パラタルバーも使用しない。



矯正後

治療終了時の写真。1年3ヶ月の動的治療期間をもって良好な結果を得た。現在治療終了後2年が経過したが、予後は極めて良好。廣院長オリジナルの小型ブラケットを用いた治療に、患者は「想像していたよりも快適でした」と、喜びのメッセージが多い。



Profile

廣 俊明 先生

- 1985年 松本歯科大学卒業 ●1990年 アメリカ C.H.Tweed コース修了 ●1991年 南カリフォルニア大学歯科矯正コース修了 ●1993年 歯学博士取得 ●1994年 ひろ矯正歯科開院
- 2002年 英国矯正歯科認定医 ●2005年 ヨーロッパ矯正歯科専門医試験(EBO) 合格
- 2008年 World Board of Lingual Orthodontics世界第一号授賞
- 日本矯正歯科学会認定医・指導医・専門医 ●日本成人矯正歯科学会認定医・指導医

ひろ矯正歯科

TEL:0263-54-6622

住所:長野県塩尻市広丘野村1658-23

HP:<http://www.mienai.com/>



SASAKI

お問い合わせ・ご意見:『C&C』事務局 細谷俊寛

FAX 0120-566-052 <http://www.sasaki-kk.co.jp>

Vol.18 May 2009 発行:ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。